

# 人と水の物語

## 時の流れを映す 商都の川。 安治川

“安らかに治まるように”  
と願いを込めて。



河村瑞賢

その反面、洪水によって流域にみならず、京都をおよぼす暴れ川でもありました。こうした被害を防ぐために淀川改修に着手することとなり、治水の専門家であった河村瑞賢にその事業が命じられました。瑞賢は、淀川河口の九条島が水流を妨げる最大の原因と考え、その開削と上流の山地の砂防工事をあわせて提案します。



一八〇〇年代の大阪周辺の様子  
淀川資料館蔵

そして、貞享元年（1684）、九条島の開削が始まり、4年の歳月をかけて曲がりくねった河川を直線河道とする総延長約3キロメートル、幅約90メートルの新川がつくられ、元禄11年（1698）には淀川が“安らかに治まるように”と安治川と命名されました。この開削によって、海から船が直接、市中へ入れるようになり、安治川は港として栄えました。入港した船は市場と直結し、中之島には諸藩の蔵屋敷が立ち並びました。さらに瑞賢は、堀江川の開削、木津川河口の難波島の開削など、多くの治水事業を行い、これによって大阪は多くの船が出入りする水路交通の要衝となり、「天下の台所」として大きく発展を遂げました。



多くの船が停泊し、にぎわいを見せる安治川橋付近。安治川ばし「浪花百景」より 大阪城天守閣蔵



現在の安治川の様子（中之島より下流を望む）

参考文献 / 「港区の歴史と風景」大阪市港区役所発行  
「西区の史跡」大阪市西区役所発行 「日本の川を甦らせた技師デ・レイケ」上林好之著（株）思想社発行



両岸に蔵が立ち並び江戸時代の安治川の様子。「菱垣新綿番船川口出帆之図」 大阪城天守閣蔵